

# 雨合羽をんな遍路を繭となす

藤田湘子

遍路は四国八十八ヶ所の札所寺を参拝して廻る巡礼。マイカーや団体バスの一行が多いが、歩き遍路も増えている。天気が悪くても予定決行は、吟行と同じである。大雨に打たれながら頭には遍路笠、全身に雨合羽を纏つての読経となることもある。しかし、この句はどこか艶っぽい雰囲気で、読後、馥郁とした気分誘われる。

前書に高知四句とある。平成三年、高知で四国地区湘子指導句会が行われた折に、近くの三十二番札所「ぜんじ禅師ぶじ峰寺」に立ち寄った時の囑目であろう。石段を上つてゆくと全身雨合羽の女の人とすれ違った記憶がある。小高い山にあり、土佐湾を一望する境内に佇む先生の後姿を今でもはつきりと覚えている。

1991年(53作) 第九句集『前夜』 鑑賞・野本京